「ラーマクリシュナの『福音』」勉強会　第２８回　（２０１６年　９月１２日）

**・第２８回の勉強範囲：「第一章　師と弟子」７頁**

・📖 （読む）「師と弟子」　６頁下段Ｌ２０～７頁上段Ｌ３

***お前は形のない神を信じている、それでけっこうだよ。しかし、たとえ一瞬のあいだでも、これだけがほんとうで他は全部うそだ、などと考えてはいけない。形のある神も形のない神様とまったく同じように本物だ、ということをおぼえておいで。ただしお前自身の信念は固く守るようにしなさい」***

***両方が同等に真理である、という主張はMをびっくりさせた。彼は、書物からは決してこれを学んだことがなかったのである。***

（解説）

神様についての議論は、科学や文学の中にはない。聖典と哲学の中にあります。

「学んだことがなかった」の意味は、聖典と哲学で学んだことがないという意味です。Mさんがこれまでに読んだ聖典と哲学の本の中に、「神様の形があるのもないのも、両方正しい」とは書いてありませんでした。

ふつうの聖典では「神様の形がある」か「神様の形がない」かのどちらかが正しいと書かれています。例えばアドヴァイタ・ヴェーダーンタ、厳しい非二元論的な考えでは、神様は形も性質もありません。トター・プリーは非二元論者でしたから、形のある神様を信じていませんでした。ですのでマザー・カーリーの寺には参拝しませんでした。トター・プリーはマザー・カーリーを崇拝しているシュリー・ラーマクリシュナを「どうしてあなたは、形がある神様を崇拝しているのですか？」とからかっていましたね。

ヴェーダ、ウパニシャッドの中には「形がある神様」と「形がない神様」の両方が書かれています。しかし注釈者が自分の見方、自分の考え、自分の信仰で少し歪曲して説明をすることがありました。ウパニシャッドのなかには、二元論的、非二元論的の両方の言葉、文章が結構あるにもかかわらず、たとえば非二元論を信じる注釈者は「私の考えと同じ非二元論的考えが、ウパニシャッドの中にあります。私の考えだけが正しいです」と説明しました。スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはそのやりかたをとても批判していました。

論理的な観点で言うと、黒色と白色が正反対なように、「形がある神様」と「形がない神様」は正反対なので、説明できません。非論理的ですね。イメージが全然でない。しかしそれは学者や悟っていない普通の人の見方です。

また、悟った人の中にもいろいろなレベルの方がいますね。トター・プリーは悟った人でしたけれども、最初、マザー・カーリーを正しくないと考えました。なぜならトター・プリーは非二元論的な道で悟ったので、非二元論的な考え方だけが正しいと考えたからです。一方、二元論的な道で悟りますと、二元論的な考え方だけが正しいと考えます。しかしそれらは真理の一部分だけを見た悟り。全体的な真理があるのです。そしてそれはレベルがアップすれば理解できます。つまり、形がある神様、形がない神様の両方が真理だという理解です。そしてシュリー・ラーマクリシュナはその種類の方でした。

**シュリー・ラーマクリシュナが現われて初めて、**

**「形のある神様も形のない神様も、両方が正しい」**と言いました。

最初はマザー・カーリーを悟りました。マザー・カーリーの本性。あとで非二元論的ヴェーダーンタも悟りました。それで結論は、「あれも正しい」、「これも正しい」です。シュリー・ラーマクリシュナはいろいろな方法を経験して悟りましたから、シュリー・ラーマクリシュナの考えが一番正しいです。聖典を勉強した知識ではなく悟った知識ですから。

学者が聖典や哲学を勉強して頭で考えた信仰は、安定しておらず浅いです。その種類の結論はインパクトが全然でない。　しかし『福音』の中で語られているインパクトは大きい。なぜなら自分で悟った経験だからです。ヒンズー教の二元論的、非二元論的、イスラム教、キリストなど、すべての悟りの経験をしてその結論が出ました。そして言いました。

**「信仰の数だけ道がある」**

Mさんは、もとはふつうのヒンズー教徒でしたが、後でブラーフモー・サマージが好きになりました。ブラーフモー・サマージの教えはキリスト教と同じく、「形がなく性質がある神様」ですね。Mさんのもともとの宗教のヒンズー教では伝統的に神様には形があります。Mさんは学者でしたから、「形がある神様」と「形がない神様」の両方を勉強していました。

しかし両方正しいという考えはなかったのでびっくりしました。

「神様には形がある」「神様には形がない」というテーマは、シュリー・ラーマクリシュナとMさんの最初の会見以来何度も『福音』に出てきますね。なぜならその当時のみなさんにとってそれは大きな疑いでした。当時、インドではブラーフモー・サマージの影響、インパクトがとても大きかったです。ブラーフモー・サマージは論理的でした。そしてキリスト教の牧師もインドにいましたから、その当時の雰囲気では、現代的教育、文化として

「神様はいない」または

「神様はいますけれども形がない」

という考えが強かったです。

当時も伝統的なヒンズー教はずっと続いていました。Mさん自身はヒンズー教はやめませんでしたが、ブラーフモー・サマージの「神様はいますけれども形がない」という考えが好きでした。

『福音』の中でブラーフモー・サマージの信者がドッキネッショルに来て、シュリー・ラーマクリシュナに何度も同じ質問、「神様には形があるか、ないか」をしました。

シュリー・ラーマクリシュナだけがその両方の経験をしており、他の人にその経験をした人はありませんでしたから、どのように説明をすれば皆さんにわかりやすいか、工夫をされました。

そのためにいっぱい例と物語を使って、両方正しいことを説明しました。歌も歌って印象を深めました。

例えば水の例があります。☞『福音』27回

もうひとつはカメレオンの例です。

**カメレオンの例**

『福音』第29章568頁

　ある男が森に入って、木にとまっているカメレオンを見た。男は友達に「私は赤いとかげを見た」と報告した。かれは、それは赤以外の色であるはずはない、と確信していた。もう一人の男が木の生えているところから帰ってきて、「私は緑色のトカゲを見た」と言った。この男は、それは緑色意外であるはずはないと確信していた。だが、木の下に住んでいる男がこう言ったそうだ、「お前たち二人が言ったことはどちらもほんとうだ。」だがじつは、あの生き物はあるときは赤に、あるときは緑に、あるときは黄色に、そしてあるときはまったく無色になるのだ」と。

赤、緑、黄色のカメレオンは、形がある神様のいろいろな形の象徴です。

全く無色のカメレオンは、形がない神様＝唯一の神様の象徴です。

とても面白い例ですね。

very logical（論理的）、rational「合理的」、very convincing（説得力がある）です。

マザー・カーリーの歌も歌いました。

♪♪　母なるシャーマは　本当に黒いのか？

カーリーは黒いと人は言う　けれど私の心はそうは思わない

ハートの蓮華にかがやく　まっ黒な御方は

ときには白く　ときには黄色　あるときは青　あるときは赤

彼女は誰？　その不思議に驚きつつ　私の全生涯は過ぎた

ときにはプルシャ　ときにはプラクリティ　ときには無形

母なる神の本質を思いつつ　カマラーカーンタは

われを忘れて　酔いしれる　♪♪

　　　☞ＣＤ「ディッヴャ・ギーティ２」１２曲目（ShaMa Ma ki aMar kalo re（Is Kali, My Mother, really black…）

ありますね、とても有名な歌。

これらの例や物語や歌を聞いて皆さんはだんだんと、「両方正しい」という印象が深くなりました。そしてシュリー・ラーマクリシュナは言いました。

**「両方正しいです。そしてあなたは、自分が正しいと思うほうをとりあえず信じて実践してください。あなたが悟るまで。悟らないと両方正しいと信じることは難しいですから」**

また、シュリー・ラーマクリシュナは一度も「両方正しいと考えないといけません」とも言いませんでした。

例えば、ふつうは「神様には形がある」と考える先生は、生徒もそのことを信じていないと教えることができません。

しかしシュリー・ラーマクリシュナは違います。なぜならシュリー・ラーマクリシュナ自身がデパートのように何でもあるからです。シュリー・ラーマクリシュナは訪問者を手ぶらでは帰しませんでした。

シュリー・ラーマクリシュナはマザー・カーリーを信じていましたが、求道者がシヴァだけ、ヴィシュヌだけを信じていても大丈夫です。それも、特徴です。すべての経験がありますから、すべての信者に同一できますから。そしてMさんに言いました。

**「あなたは自分の信じる神様を信仰してください。しかしけっしてその道だけが正しいとは考えないでください」**

自分の信じていることだけが正しいと考えることは、普通の人の大きな問題ですね。宗教と宗教、宗派と宗派。例えば、仏教で「あなたはお釈迦様を信じていますが、それだけでは十分ではありませんよ。私の宗派を信じないとあなたは天国に行くことができず、悟ることも出来ません」と言ったり、キリスト教でも、「イエスを信じているだけではなく、カトリックにならないと天国に行けません」と言ったりします。皆さん、とても考えが狭いです。

しかしシュリー・ラーマクリシュナの言うことは、「あなたは自分の信じる神様を信仰してください。しかしけっしてその道だけが正しいとは考えないでください、他の人が間違っているとは言わないでください」です。なぜなら

**神様は無限です。**

**有限であるあなたの見方だけでとらえると、神様が無限でなくなります。有限になります。神様の性質が有限になります。**

スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの有名な言葉もあります。彼はとても強く言いました。

**Every religion has produced the saints, and they realized souls.**

**Why do the saints say “ My religion is truth, your religion is wrong” ?**

**「すべての宗教は聖者を生みだし、彼らは魂を悟った。なぜその聖者たちが『私の宗教は正しくあなたの宗教は間違っている』などというのか？」**

本当に正しいでしょ。歴史的にも正しいです。

しかしシュリー・ラーマクリシュナは

「神様の形がある、形がない、の両方とも正しいですが、今そこまで信じることが難しければ、自分の道だけに従ってください。ですけれども、他の道が間違っているとは決して言わないでください。」

それが**宗教の調和の本当の窓口**です。

（『福音』勉強会第２８回、以上）